

自己流を脱するには、どうしたらいいか？

中嶋塾@東京 2023 第3クールCグループ

麻布中学校・高等学校 山内 崇史

12月例会の冒頭、中嶋先生は特別に1時間を割いて「ESAT-J対策（Speaking指導）」についてワークショップを開いてくださいました。そこでは、音読の正しい指導方法を示していただき、実際に、わずか20分の練習で、高速の音声をシャドーイングできるどころか、スクリプトの大半を暗唱してしまい、殆どシャドーイングにならなかったのですから、非常に驚きました。この強烈な体験から、自分の指導を振り返り、「これからの授業で本当に必要な指導（中嶋先生のメールより）」とは、「自己流を脱すること」に尽きると考えるようになりました。

1 自分の現在地

「あなたの現在地は？」と書かれたスライドには、授業力のレベルがC～Sの4段階に分けて示されていました。

- S 習慣になっており、正しい方法なので、どの生徒もできる。
- A 授業でやっているが、自己流なので、生徒のやり方がバラバラであり、できていない。
- B 授業でやったことはあるが、続かなかったので、どの生徒もできない。
(正しい指導ではなかったので有効性に気づけなかった)
- C 教師は、セミナーや書籍で聞いて（読んで）知っているが、生徒は知らない。
(授業で教えていないなら何も知らないのと同じ)

中嶋塾で学び、研究授業に向けて学んだことを実践（チャレンジ）してきたおかげで、知っているのに授業で教えていない（Cレベル）ということはあまりないと思います。しかし、殆どの指導がBやAレベルに留まっています。

先日中嶋先生よりご指摘いただいた敬語の使い方も、頭で分かっているけど、実際にはできていないことがたくさんあります。音読指導についても、生徒の実態に応じた様々な指導法を知ってはいますが、まさにやったりやらなかったりで、指導に継続性がありません。

授業のすべての側面においてSレベルを達成するには、一つひとつの指導が理論的・学習者心理的に正しいものになっているか確認し、その指導方法を習慣にしていけること、以てどの生徒も「できた！」と自身に溢れた笑顔になってもらうのが大切になると考えます。

2 自己流の指導を見直すためにすべきこと ～機能語・内容語の指導を例に～

Speaking指導において、流暢さをグンと向上させる機能語・内容語の指導は不可欠です。しかし、これまでは

- 評価をしない
- 今が指導の旬だ！と思ったときに取り上げるだけ

計画性（BWD）の欠如

のように、自己流の指導になってしまっていました。それでも、「各学期に1回は授業中に伝えているのだから、できるようにならないのは生徒が授業外でも練習していないからだ」と生徒のせいにする部分も、少なからずありました。当然、意欲があって授業に取り組んでいる生徒だけが少しできるようになるといった程度の、成果と呼べない成果しか得られませんでした。

この1年、中嶋塾で「できるようにする」指導法を、座学と体験を通じて学んで（言語化を通じて経験へと昇華して）きました。特に第2クールは、Interview Mapping と Retelling に挑戦し、生徒も大いに自信をつけていますが、自分自身も「正しい指導を積み重ねれば、こんな短期間でも生徒は変わるんだ」という自信を得ています。機能語・内容語についても同様に、自己流を脱することが必要です。

まずは、どの学年を担当する場合でも、**音声指導を年間計画に位置付ける**ように、同僚との共通理解を図ることが第一歩です。次いで、**評価の方法と時期**、**事前指導の方法**（指導と評価の一体化）、**事後の振り返り**（起承転結型の着実に力のつく指導）を綿密に考えることで、どの生徒も「できる」ようにしていきます。（太字・下線はマイアクション）

3 自己流を脱するには、どうしたらいいか？

この小論に記述したことを一般化して、本レポートのまとめとさせていただきます。

<殻を破るためのチェックリスト>



□ 評価軸をもつこと

C～Sレベルの評価規準を内面化し、常に自分の現在地を確認することが重要。

□ できないことを生徒のせいにして自己を見つめ直すこと

□ 今までの指導法に固執している自己を見つめ直すこと

大きな言語活動や定期試験の後などに、指導の振り返りを書き、冷静に自分自身の弱点をあぶりだすようにする。指導法を見直す際は、slow learners を巻き込めていたかどうかを振り返ることも重要。それができていなければ、生徒の実態に合わせて、指導を細分化していくことが大切。

□ 「正しい」とされる指導の深層を理解すること

□ 「正しい」とされる指導を、素直に試してみる

本で読んだり、セミナーで聞いたりした指導法をそのまま真似してもうまくいかない。今までの自信の指導と比べて、何が違うのか、その新たに学んだ指導法がなぜ優れているのか、自分なりに納得することが大切。すぐに理解できない場合でも、まずは素直に一定期間（3カ月間）取り組んでみると、生徒の反応から、その指導法の真意が見えてくることも多い。